巻 頭 言

仙台市病院事業管理者　　奥　田　光　崇

仙台市立病院医学雑誌第44巻が電子版として刊行されることとなりました．本号には原著4編，症例報告6編，コメデイカルレポート3編のほか，昨年発表された著書・論文リスト，学会発表，院内剖検記録等が収載されています．編集作業に取り組まれた刈部委員長を始め編集委員，査読委員，そして貴重な臨床経験や研究結果を論文にまとめ投稿していただいた方々に敬意を表します．

当院は仙台医療圏の中核的病院として，救急医療をはじめとした政策的医療，高度急性期医療に取り組んでおります．令和6年度は，身体合併症精神科医療を推進するための司令塔となるコンサルテーション・リエゾンセンターを立ち上げ，救急外来から入院した患者さんを総合的に診療し地域へつなぐための救急科病棟チームの活動を開始したほか，10月からは手術支援ロボットDa Vinciの運用を開始しました．このような特記事項のほかにも常日頃から各部門が専門的技量を発揮し，令和5年度の集計では15,561人の救急患者（うち8,386人の救急車搬送患者）を応需し，5,455件の手術を行い，のべ147,780人の入院患者を診療しています．

この中には稀有な症例，診断や治療を行うにあたって注意を要する症例，診療する中で新たな気づきを得るケースも数多くあります．コロナ禍という社会の激変を最前線で受け止める中で，感染対策に様々な工夫を凝らしてきた経験もその一つです．これらの貴重な経験をそのまま終わらせずに論文という形にまとめて報告することは，著者にとってはよい勉強の機会となり，また，将来同様の症例や同様の事態に遭遇する医療従事者にとって，よい道標となることでしょう．

これからの医療においては多職種協働が推奨され，各職種の視点から意見を出し合いながら診療を進めていくことが求められます．今回，医師からの報告のほかに，看護部，コメディカル部門からも原著およびレポートが投稿されましたが，これらは多職種協働の場を醸成するものとしても，意義が大きいものと考えます．

医療をめぐる情勢は目まぐるしく変化して行きますが，論文として記録したものは後世まで残り，必要時に検索されます．この仙台市立病院医学雑誌が多くの人の目に触れ，役立つことを祈念して，巻頭言といたします．